

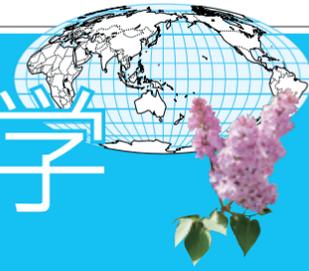
學報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.18

2015.6.25

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3. 学部長挨拶	2面
4. 研究科長・学部長・センター長紹介	2面
5. 大学ポートレートを公開	2面
6. 卒業式挙行	2面
7. 名誉教授授与	2面
8. 優秀学生表彰	2面
9. 入試結果概要	3面
10. 就職状況について	3面
11. 2年次所属学科選考ガイダンス	3面
12. 保護者説明会	3面
13. 留学生修了式	4面
14. 交換留学生歓迎会開催	4面
15. 院生紹介	4面
16. 留学だより	4面
17. 広がる学外との連携研究会	5面
18. OB・OG NOW!	5面
19. 「研究のいま」田辺隆司教授	6面
20. ゼミ訪問 島津ゼミ	6面
21. ハード先生 Interview	6面・7面
22. レスブリッジ大学交換学生研修来日	7面
23. 2015年度 前期公開講座開催	7面
24. スピーチコンテスト 語学検定報告	7面
25. 新任教職員・交換教員紹介	8面
26. 新刊紹介	8面
27. 学生相談室ニュースレター③	8面
28. サークル活動紹介	8面
29. 行事予定	8面

グラハム・ハード/ Graham W. Herd 先生、故郷のニュー ジーランドへ帰国

本学の教授であり、本学の前身である北海学園北見大学教授として、永く北見市で過ごされた経験のあるハード先生の、ニュージーランド帰国に際して、北見市でお別れ会が行なわれました。ハード先生が名誉顧問をつとめる北見市の「ピアソン会※」が主催となり、北見時代に交流を深めた方々との楽しい時間を過ごされたそうです。帰国を前にハード先生にお話をうかがいました。(本文は6ページに掲載)

※ピアソン会：1888(明治21)年、キリスト教宣教師として来日した米国人ジョージ・ピアソン、アイダ・ゲップ・ピアソン夫妻は1914～1928年まで野付牛(現北見市)を拠点として、布教活動にとどまらず教育、福祉などへ献身的に取り組んだ。北見市はその偉業と住宅跡を「ピアソン記念館」(北海道遺産)として保存。北見市民はNPO法人ピアソン会を設立し、北見市との協働で記念館の運営を行っている。ハード先生は資料研究、出版活動に関わるなど、ピアソン会顧問として長く北見市民と交流を深めた。



グラハム・W・ハード先生

平成27年度 入学式挙行

平成27(2015)年度入学式が4月3日、ガーデンパレスホテルにて行われました。今年度は学部生176名、大学院商学研究科博士(後期)課程3名、修士課程2名、交換留学生22名、合わせて203名の新入生を迎えました。学長の式辞に続いて新入生宣誓、学部長・研究科長・センター長の紹介が行なわれました。また、中国・韓国からの交換留学生の皆さんも、本学での1年間の留学をスタートさせました。



平成27年度入学式



式辞を述べる森本正夫学長

平成27年度(第39回)入学式式辞

北国の春のこの佳き日に、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長 木村和範先生、北海高等学校の校長 山崎省一先生、北海学園札幌高等学校の校長 大西修夫先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海商科大学の新入生176名と交流校である中国山東大学から6名、中国煙台大学から9名、韓国大田大学から7名の留学生を迎えました。また、東アジアの時代を見据え、流通、観光、経営分野の高度な専門的知識・能力を備えた人材育成を目指し、今年度完成年次を迎える大学院商学研究科に博士後期課程3名、修士課程2名、合わせて203名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙げていくことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学し、記念すべき十回目の入学式を迎えました。

この北海商科大学の新たな歴史は、きょう入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作っていくことを楽しみにしております

北海商科大学は新しい大学です。母体である北海学園の

歴史は古く、創立は130年前の明治18年にさかのぼります。現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海高等学校と北海学園札幌高等学校を設置しており、1万2千名ほどの学生生徒が日夜勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は16万名を超え、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新入生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商業取り引きやビジネス活動に欠かせない基本となる知識を広く深く学び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れて展開しております。

特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外国語の教育と異文化の理解に力を入れていきます。

本学の海外の教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州のカナダのアルバータ州南部にあり、34年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学威海分校と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市になりました、昔の百済王国の地にある大田広域市の大田大学校がすでにそれぞれ皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと新しい大学で学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探求するところ

です。基礎的な教育もあれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながります。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。

特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成システムを目指しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。

私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると思っております。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関するやり取りを通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切に、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新入生の皆さんにおかれましては、きょうの入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、四年間精一杯努力することを期待して学長の式辞いたします。

平成27年4月3日 北海商科大学 学長 森本 正夫

学 平成27年度 部長挨拶



札幌から世界に発信し、北海道に世界を呼び込む『グローバル・ビジネスパーソン』を目指して!

商学部長 阿部 秀明

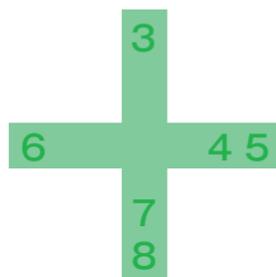
北海道は、日本の食料基地として農畜産業はもとより食料製造業を中心として産業の集積が非常に進んだ先進的な地域です。しかも、世界(主にアジア)を舞台にしてグローバル戦略を展開する企業が増加しています。北海道が今後さらに発展するためには、「北海道という地域」の経済活動とその成果をこれまで以上にアジアを始め世界に発信すること、そして、世界の活力を北海道に積極的に呼び込むことが大切です。

本学商学部は、これからの北海道経済を担っていくことができるスマート・ビジネスパーソンを養成します。目指すのは、「北海道という地域」にしっかりと足場を置きつつ、語学力と強い自己発信力を武器に、グローバルな視点から世界経済との双方向的な活動をアクティブに展開できる『グローバル・ビジネスパーソン』です。

新たな活躍のステージとして、今年度より入学定員が30名増員されました。それを機に、来年早々(2016年4月)には、「新校舎が増築」されます。



新校舎の着工にあたり、6月16日に行われた地鎮祭



研 究科長・学部長 センター長紹介

■大学院研究科長	西川 博史 教授
■商学部長	阿部 秀明 教授
■教務センター長	柳川 博 教授
■学術発展センター長	伊藤 昭男 教授
■入試・広報センター長	村松 祐二 教授
■キャリア支援センター長	田辺 隆司 教授
■学生支援センター長	佐藤 博樹 教授
■国際交流センター長	水野 俊平 教授

公開 大学ポ ートレ ート

平成26年10月から全国の私立大学で公開されている「大学ポートレート(私学版)」を本学も公開しています。本学の基本情報、入試情報、学生生活上の支援や取り組み、就職・進路に係る指導体制や進路状況、海外留学や留学生受け入れ等の国際交流、カリキュラムや学修の支援・取組など、本学の各種取り組みを項目ごとに関覧することができます。

本学のホームページや入試案内、学報などの情報を補足したり、別の視点から捉えたりできる内容となっています。ポートレートの閲覧は下記のURLからアクセスしてみてください。(伊藤)

■<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/0000000005802000.html>

卒 平成26年度 業証書・学位記 授与式挙行



阿部秀明商学部長からひとりひとり卒業証書を授与される卒業生

平成26(2014)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、札幌パークホテルにて挙行されました。平成26年度修士課程修了生2名、商学部卒業生156名(うち商学科109名、観光産業学科47名)に卒業証書・学位記が授与されました。卒業生、修了生は教職員やご来賓、家族が多数見守る中、新たに学窓を巣立ちました。卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が催されました。本学同窓会高橋副会長、森本正夫学長が祝辞を述べられました。



写真上：卒業生集合写真 左：卒業証書授与 右：卒業生を送る会



左から、グラハム・ハード先生、森本正夫学長、中島茂幸先生

名 誉教授授与

平成25(2013)年3月をもちまして本学を退職されたグラハム・ハード(Graham W. Herd)先生、中島茂幸先生に対し、北海商科大学より名誉教授の称号が授与されました。授与式は4月27日午後2時より北海学園本部2階会議室においておこなわれ、森本正夫学長により両先生による本学への長年の貢献が称えられました。ハード先生は昭和53(1978)年に赴任されおもに英語教育を担当され、中島先生は平成2(1990)年に赴任されおもに簿記・税務会計分野の講義を担当されました。

優 秀学生表彰

北海商科大学教育振興資金による学業優秀学生・課外活動優秀学生表彰を、2年次と3年次の学生を対象として実施しました。本学の教育振興資金による学生の海外留学及び対外活動支援はこれまでも行ってきましたが、平成25年度からは学業優秀・課外活動優秀学生にも表彰対象を拡大してきました。本年度は3月23日のガイダンスにおいて、新2年次4名、新3年次3名を表彰し、奨励金を授与しました。今後も奨励金等を活用し、学業成績の向上や課外活動で大きな成果をあげられるよう期待しています。(阿部)



阿部秀明商学部長より表彰される学生

入試結果概要



平成27(2015)年度の大学入試を巡る環境には、引き続き厳しいものがありました。昨年と比べ道内18歳人口の減少傾向は弱まったものの、全国的に進む少子化の傾向や、石狩管内を除いた道内大学進学率が低迷する状況に変化はみられませんでした。また看護や介護系学科への進学人気が続いていて、文系学部にとってはこれも向かい風となります。さらに本学の学生募集活動上では、東アジアの外交問題が微妙に影を落とすなど、入試全般においては一部で支障をきたす場面もみられました。

こうした状況であります、本学では昨年度に募集定員を30名増やし180名とする定員増を実施しました。定員増後初の入試となったわけですが、一般入試、センター試験利用入試、特別(推薦)入試を合わせた志願者の合計は348名となり、入学定員180名に対する倍率は1.9倍となりました。

一般入試は、入試科目の3教科3科目化を実施して2年目となりました。国語・英語・選択科目(「世界史B」「日本史B」「地理B」「政治・経済」「数学I・A」)の3科目合計の平均点は188.9点(受験者)となりました。科目別では英語が61.3点、国語が66.8点で、選択科目は世界史が最も高く66.8点、地理Bが最も低く58.0点となっています。選択科目の選択率では「政治・経済」が最も高く41.0%、これに「日本史B」26.0%、「数学I・A」23.1%と続き、3科目で9割に達しました。

受験者数が昨年度比で26.5%増えたセンター試験利用入試は、平均点は357.8点(受験者)と前年度比で6.8%ほど下がりました。選択科目の選択率は「政治・経済」が31.9%と多く、これに「日本史B」21.3%と「数学I・A」16.9%の上位3科目を加えると7割になり、一般入試ほどではありませんが、これら3科目へ集中する傾向がみられました。

特別入試は、指定校推薦で42名の志願者を得ました。また公募推薦は定員15名のところに20名の志願者があり、全員優秀な成績で合格しました。(村松)

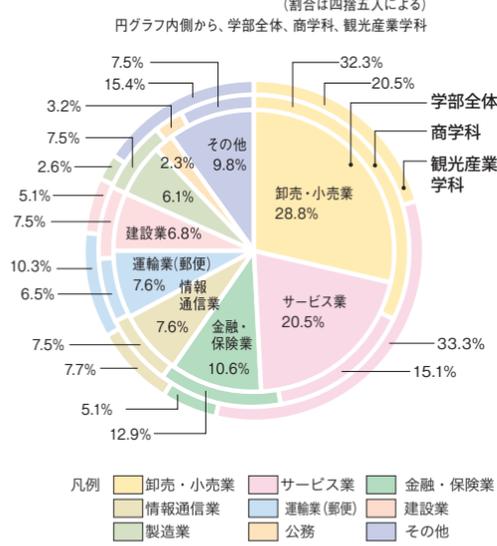
就職状況について



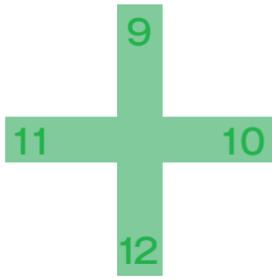
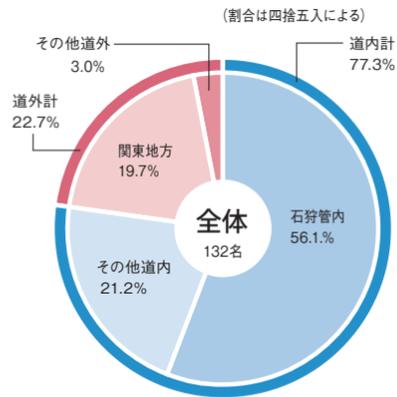
昨年12月に行われた業界研究会

本学の平成26(2014)年の就職状況は、過去最高の97.8%の就職決定率(4月現在)を達成し、昨年よりも1.1ポイント上昇しました(全国平均は96.7%で2008年3月以降では7年ぶりの水準です)。特記すべきことは、卒業生諸君の健闘により卸売・小売業、サービス業(観光関連)、金融・保険等の多くの業種において入社できたことです。これも一人ひとりが真剣に就活に取り組み努力をしたからにほかなりません。さて最近の景気動向の改善は新卒採用を拡大させ、また先般、文科・厚労の両省は、昨年度の大卒就職率について北海道等でも改善を示し地方にも景気回復の波が波及していると発表しました。とはいえ今年度も人気企業に希望者が集まり、激しい競争が繰り広げられる構図は変わらないことから油断は禁物です。加えて本年度は就職活動の日程が、経団連等の指針により大幅に“後ろ倒し”されています。これは全企業の話ではなく指針に従うのは経団連加盟の大企業のみで、非加盟の企業はスケジュール変更には縛られないという変則的な変更です。そのため企業によっては8月より前に選考して内々定を出すことも予想されます。このため絶えず新しい企業情報をキャッチし柔軟に行動することが重要です。今後とも、キャリア支援センターとしては状況に即応した体制を整えて、就職支援をより一層きめ細やかに行っていく所存です。(田辺)

2015年卒/業種別就職状況



2015年卒/本社所在地別就職状況



保護者説明会を開催

平成27年度の保護者説明会が、本学を会場として5月30日2年次、6月6日3年次の保護者を対象として開催しました。この説明会は、日頃の教育内容、学生支援の取り組みなどを知っていただくために毎年学年単位で行っているもので、両日とも多くの方々が出席されました。冒頭、阿部学部長から本学の現況と今後の取り組みなど多岐にわたり説明がされました。2年次の説明会では各センター長から、平成26年度入試結果、所属学科選択制度、国際交流、学生生活支援、就職支援などが説明されました。また3年次では、昨年度卒業生の就職状況および27年度の動向などについて説明がありました。就職活動が本格化する時期でもあり、皆さんは熱心に耳を傾けられていました。全体の説明会に続き個別相談も行われました。



5月30日に行われた2年次保護者説明会

2年次所属学科選考ガイダンス開始

平成23年度入試から学科別ではなく学部入試に移行したことによる2年次第3セメスター開始時に所属学科を決定する作業は今年度で4回目となります。学生の所属学科希望を最大限に考慮し、両学科の定員に対して極端に希望が偏った場合には1年次の学業成績を基準に所属学科の選考を行うことを1年次から周知させ、所属学科選考の作業を進めています。まず、3月23日の新2年次ガイダンス(写真)において、所属学科決定までのスケジュールを説明し、両学科の定員に偏りが生じた場合の選考基準を確認し、両学科教育委員会委員長より学科の概要とカリキュラム・ポリシーを説明しました。

5月19日には第1回目の2年次所属学科選考ガイダンスを実施し、両学科教育委員会委員長による学科選考に向けた説明とともに、「学科選考に係るゼミナール見学希望届」を配布しました。6月9日から6月18日にかけて両学科のゼミを見学し、7月1日には第2回目のガイダンスを実施し、「志望学科届」を配布して選考作業に入ります。(柳川)





平成27(2015)年2月20日(金)に、平成26(2014)年度の交換留学生の修了式が行われ、森本正夫理事長・学長から、中国山東大学威海分校・煙台大学・韓国大田大学校からの交換留学生14名と研究生に修了証書が授与されました。

交換留学生14名は、4月から本学で日本語と日本の生活文化を学習しながら、日本人学生と一緒にゼミや講義を履修してきました。その中の「日本人の生活と習慣」では、 Semester末に「学内研究発表会」を行っています。後期のテーマは、「札幌の国際化について考える」で、今まで学んだことを生かし、札幌市の国際化について、自分たちの考えを発表しました。大田大学校の姜海延さんは、「国際化は違う国との交流を意味する。交流は、片方が一方的に求めてできるものではなく、お互いを知りたいと思う事から始まる。」と述べ、お互いを尊重し、歩み寄り努力をすることの重要性を主張しました。

また、平成26年度の学生プレゼンテーションコンテストでは、大田大学校の鄭淨烈さんが、北海道を訪れる観光客を増やすための具体策として、「観光客がまた行きたい!と思うように、パスポートの訪日記録を通しての積み立て方式の「再訪日観光客のための旅行マイレージサービスの提供」を提案、見事に最優秀賞を受賞しました。

昨年度の留学生も、たくさんの思い出をつくり、本学を巣立っていきました。(加藤)

留 学生修了式

院 生紹介



パルビエフ・ウアリさん

北海商科大学大学院
商学研究科 修士課程1年

大学院生になって2か月間が過ぎようとしています。私の自己紹介を含め現在の気持ちを書いています。

■日本へ来た理由: 幼いころから日本への憧れがありました。それは、侍映画を見たためです。また侍の家にも興味を持ち、日本に行くために日本語を勉強し始めました。大人になったら日本語を勉強して日本に行きたいと思っていました。

■カザフスタンの思い出: 生まれ育った故郷は、人口150万人の周りを山で囲まれたアルマトイという街です。日本の街の人の多さに慣れてきたので、故郷の街はさびしい感じです。札幌に来て感じたことは、活気のある街だということ、どこに行っても好きです。また、その活気も表面的な面だけで

なく、YOSAKOIなど文化的な面でも好きです。子供のころから柔道を体験し最近では空手、合気道など武道に興味を持ち、実際に空手を習っています。

■授業と研究: 研究は始まっていますがまだテーマ決まっていません。物流に関して研究しようと思っています。残念ながら母国は、人口が少なく有効な物流システムが確立していません。日本で先進国の事例について学んで、祖国での有効な物流システムの確立、豊かな生活づくりに貢献したいと思っています。

留学だより

中国 山東大学威海校留学

●観光産業学科3年 橋本 望

去年1月、念願だった半年間の中国留学から帰国し、日本での生活を再開させていく中で、前回の留学に対する後悔があった。高校生の頃からあんなに憧れていた留学が、もの一瞬で終わりを迎え、満足のいくものにできなかった。前回の後悔があったため、再度留学することに決めた。短期の時と同じ山東大学だったため、わりとすぐ威海の生活に慣れることができたし、クラスメートや先生たちにもすごく恵まれたいい環境で、今は日に日に迫る帰国が惜しいくらいだ。留学をすることで、同級生と卒業が遅れたり、後輩と講義を受けなければいけなかったり、必ず支障が出てくると思う。実際、私も出国前は同級生に遅れをとることに不安を覚えた。だが、社会に出てから、1年間という期間で留学するのは、そこまで簡単な事ではないし、一般に言われているように「留学するなら大学生の今のうち」だと、私も思う。もし、留学したいという気持ちが少しでもあるのなら、真剣に考え行くか行かないか選択してもらいたい。

今、色んなものを犠牲にして、中国に来たことに一切後悔はない。むしろ、来て良かったと心から思う。今回の留学で、語学面だけではなく、価値観など色んな面で確実に前回よりも成長できたと胸を張って言える。語学は日本でも勉強できるが、日本を離れ海外へ行ったからこそわかることがたくさんある。楽しいことだけではなく、だからこそ良い経験に必ずなると思う。

韓国 大田大学校留学

●観光産業学科4年 市川 あみか

私が2月25日に大田大学に来てから約3ヶ月が経ちました。大学1年生の頃にも半年間、大田大学校に留学した経験がありますが、あの時よりも今がとても充実していて毎日が楽しいです。

各国別に出し物を準備して、歌やダンス等を披露します。私たち日本チームの10人はK-POPのダンスを披露しました。1週間、毎日3時間ほど練習をし、少し大変でしたがとても良い思い出になりました。「日本人はやっぱりダンスが上手いね!」と言われてとても嬉しかったです。

これからの残りの留学生活も悔いの残らないように楽しめたら良いと思います。

●観光産業学科4年 松田 梨沙

大田大学校は、人との出会いが魅力的な大学です。

韓国人と友達になれるのはもちろん、他の国の友達もたくさん出会えます。また、日本各地からも留学生が来るので、お互いを刺激し合える良い仲間ができます。日本人仲間では定期的に集まって、ごはんを食べたり、近況報告などをしたりして仲を深めています。ルームメイトとは、その日に感じたことはその日のうちに話し合っ、頑張らなければならないことを常に確認し合っています。残りの留学生活も、悔いの無いようがんばります!



大田大学校の学生たちと(中列右端が岩岡あかりさん、後列左から1人目が松田梨沙さん、2人目が市川あみかさん)

●観光産業学科4年 岩岡 あかり

私たちが学んでいる大田大学校にはさまざまな国からの留学生がいて、韓国人だけではなく違う国の友達と話す機会も多いです。特に中国人とは仲が良く一緒に発表の準備をしたり勉強を教えあったりしています。分からない言葉がでてきたらジェスチャーしたり辞書を使いながら会話することもありそれがとっても楽しいです。これからも勉強を頑張って充実した留学生活にしたいです。

交 換留学生歓迎会 開催



山東大学(威海)からの交換留学生、左から、高新GAO XINさん、胡可HU KEさん、熊子涵XIONG YUHANさん、潘璐PAN LUさん、許尚真XU SHANGZHENさん、王邦WANG BANGさん。



煙台大学からの交換留学生、前列左から、徐楠XU NANさん、栗艺菲LI YIFEIさん、王伊蓮WANG YILIANさん、秦向楠QIN XIANGNANさん、李雪LI XUEさん、後列左から、于欢YU HUANさん、苏明伟SU MINGWEIさん、李順杰LI SHUNJIE先生、李姿璇LI ZIXUANさん。そのほか衣艶松YI YANSONGさん。



大田大学校からの交換留学生、左から、林昌浩LIM CHANGHO先生、鄭召榮JUNG SOYOUNGさん、尹何誠YOON HASEONGさん、尹又尹YOON CHAYOONさん、金星秀KIM SUNG-SUさん、金志哲KIM JICHEOLさん、丁海充JUNG HAEYUNさん、李ウンビEE EUNBIさん。

去る4月15日午前11時半から、本学地下1階の自由学習コーナーにて、平成27(2015)年度留学生交流会が実施されました。協定校である山東大学威海分校・煙台大学・大田大学校からの交換教授の先生、留学生(22名)と教職員、大学生、日本人学生が参加しました。在校生はもちろん、卒業生の参加もあったことで、本年度は例年に比べて参加者が増加し、総勢で100名を超える活況を呈しました。会場は熱気で汗が流れるほど。交流会では阿部学部長の挨拶に続き、国際交流センターの教員紹介、交換教授の先生の紹介、留学生・大学院生の紹介、記念写真の撮影などが行われ、軽食を摂りながら楽しい交流のひと時をもつことができました。(水野)



EXCHANGE 広がる学外との連携研究会 NETWORK

産学提携「インバウンド研究会（一衣帯水友好会北海道部会）」

5月21日に開かれた研究会



北海道大学では、教員が社会貢献の一環として、学外の研究会や行政の審議会などに参加しています。そのなかで、北海道大学で開かれている「一衣帯水友好会北海道部会」のインバウンド研究会をご紹介します。

2013年に北海道に観光で訪れたインバウンド客（訪日外国人旅行者）は115

万3,100人となり、年度としてはじめて100万人を超え、日本全体の訪日外客数の約1割を占めるようになりました。2015年度は、さらに多くの訪問客を見込めると推測されています。

北海道は、特にアジアからみると憧れの旅行地です。自然景観・食・雪・温泉は、国内トップクラスといえるでしょう。しかし、実際には常に国内外からの競争にさらされています。さらに、このまま増え続けると、現在の外国人観光客受け入れのままで対応できなくなることが危惧されています。そして、外国人を受け入れる企業や団体は、もはや一企業や業界単位での取り組みでは対応しきれなくなっているのです。

一衣帯水友好会は、2009年に東京で始まった訪日中国人旅行者の、日本側の受け手となる民間企業の異業種有志の勉強会です。2012年に北海道部会が立ち上がり、対象国を中国に限らず、アジア圏を中心に「北海道の観光を通じた内需拡大」を目指しています。

現在のメンバー企業は北海道を代表する小売り、輸送交通、金融、ホテル、メディア、情報サービスなどで、企業の現場に近い担当者が、隔月に一度、業種を超えて意見交換を活発に行なっています。また、勉強会だけでなくビジネスマッチングにつなげることに力を注いでおり、すでに「免税拡大記念北海道キャンペーンプロジェクト」が実施しています。

観光産業は、複数の業種や産業で構成され、さらに関連する業種や産業が多いのが特徴です。こうした産業界と大学が北海道の観光を真剣に語り合う場を持ち、そこからまた様々な施策が生まれ、国際競争に負けない北海道にしていくことが、求められています。（加藤）

北海道高等学校教育経営研究会(以下高経研と記す)は、1990年に北海道の高校教育改革の推進を目指して誕生しました。以来、25年間にわたり、教育経営の研究を軸に、「身近な教育改革」の推進をテーマとして、志を共にする教育関係者が集い、理論と実践の両面から北海道教育の改善・充実に資することを目的に研究会活動を行って参りました。

教育経営の研究は学校経営をはじめとして、教育行政や教育制度などの領域と関わりますので、発足当初の会員は校長・教頭等の管理職や教育委員会職員などが多数を占めました。しかし、学校経営は、教育課程経営・分掌経営・HR経営など教職員の協働によって成立しており、また、近年は地域教育経営や生涯学習などが教育経営の要素として重要性を増しています。そのため、現在の参加者は学校管理職に加え、ベテランから若手に至る幅広い年齢層の教職員、異校種教員(大学・中等教育学校)などへ広がっています。高校の教育経営において、教科・科目などの枠組を越えた学際的な研究会は、全国的にも希有であると言われています。

高経研の主な研究会活動は、夏期と冬期の年に2回実施する全道研究大会と札幌近郊の会員が行う月例会です。全道大会では、教育課題の分析に基づく研究課題を設定して、全国から著名な教育学者等を招聘して講演やシンポジウムを実施します。月例会ではそれらを深めて、研究内容を著書や研究紀要に蓄積してきました。高経研への参加者は、25年間で延べ5,000余名に達しています。

2009年からは、研究活動の場を北海道大学(本学)に置き、全道大会と月例会を実施して、研究活動を一層活性化させてきています。この間の主な研究テーマは、「学力の質保証と高大接続」「社会変動とキャリア教育」「教育改革とシティズンシップ教育」などであり、その研究成果の一端は『高校教育の未来』に著しています。現在は、この数年間にわたってテーマとしてきた「シティズンシップ

教育」の研究成果の検証段階に入っており、本年冬の発刊を目指して研究の取りまとめを行っています。

これからは、昨年暮れの中教審答申「新しい時代にふさわしい高大接続に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について」を踏まえ、高大間の連携・協力を一層推進することが求められていると思います。高経研では、今後とも「身近な教育改革」を目指す反省的実践者が集い、共に研鑽する場を提供して、北海道の教育経営の充実に貢献していきます。（堂徳）



平成25(2013)年に本学で行われた高経研夏期シンポジウム

タイトル上写真：『高校教育の未来』
北海道高等学校教育経営研究会編
2012年12月15日/学事出版刊
ISBN978-4-7619-1940-5

右写真：北海道高等学校教育経営研究会による書籍（いずれも学事出版刊）

北海道高等学校教育経営研究会

OB・OG NOW!

小野 祥輔 ●H.I.S.旭川営業所

卒業して、早2年がたちます。最初に入社からの経歴は、担当業務の移動が結構激しくこれから就職の人も覚悟してください。しかし企業の様々な内容を経験することは、必須のことだと思います。少しその変遷を書いてみます。函館営業所6ヶ月で仕事を少し覚え、沖縄どらえもんビーチで3ヶ月働きました。その後、北海道で、6ヶ月間北海道発コールセンターのオンライン受付をしました。また、その後、関東国内旅行センター(北海道着地コールセンター)のオンライン受付で6ヶ月働きました。その後再び北海道国内旅行センターで6ヶ月働き、現在旭川営業所で働いています。

仕事の苦勞とやりがい

働いてそんなに長くはありませんが、苦勞することもあります。5月より旭川営業へ

転勤となり海外旅行の手配、案内を函館営業所から約2年ぶりに始めたため様々な業務で苦勞しています。行き先も幅広く、知識、手配内容が複雑なためです。海外旅行業務の経験については、色々の業務箇所を廻りましたので即戦力では、同期と差がでていたので急いで覚えていく必要を感じています。併せて、予約数も札幌ほど多くはないので、単価を意識して1件の予約をとりにいくのに苦勞



を感じます。他方、JTB等他社では予約がとれないと、断られたケースでHISにお問い合わせいただき、手配ができる内容を見つけて提案、予約をとれた際に面白

く感じます。もし弊社に電話されてこなかったら、きっと諦めて、思い出づくりが一つなくなっただと思います。

学校の思い出と将来の夢

中国語授業と専門ゼミです。中国語では、中国の無二の親友と出会ったことです。ここでは省略しますが国境を超えた友情は、インターネット時代でも不可能のことだと思っています。ゼミでは、1ヶ月に1回観光ガイド自習をしていました。担当の時は、観光地詳細を事前に発表し、現地案内しました。ここで観光の魅力を知りました。今挑戦したいことは、旅行案内、旅行手配に工夫をして誰もが希望が叶う旅行企画をやりたいです。若い君たちに伝えたいことは、大学生活を生かすも殺すも君たち自身の関わり方だという点です。



健康保養地のあり方

研究のきっかけ

私は「森林機能を活用した快適空間の形成」をテーマとして、森林地域のもつ「癒し効果」やストレス発散等の効能と健康増進の関係、また日本社会に導入されやすい森林保養地の形態について調査研究を行っています。その背景には、生活習慣病やうつ病等の疾患の発症者の増加や、過去に日本が経験したことがないスピードで進行する高齢社会があります。私がこの研究を始めたのは、森林地域の水源涵養や大気保全等の公益機能を調べていく過程で森林療法を知ったためであり、現在までドイツの健康保養地(クアオルト)と日本の森林保養地の比較研究等を行ってきました。

生活習慣病等の増加と森林浴の誕生

わが国では死亡原因の約6割が糖尿病や心疾患等の生活習慣病です。特に糖尿病の増加率が高く罹患者と予備軍を合わせて、その総数は約2,210万人と推定されています(厚生省、2007年)。国は3次の「国民健康づくり対策」を実施し「健康日本21」の目的の一つに、健康寿命の延長を掲げ「健康保養地における休養」を明記しました。また、ほぼ同時期に、森林浴が健康増進効果から注目され、ストレス解消や休養を目的とした人々で各地の自然休養林等は賑わうようになったのです。この背景のもと、私は国民病ともいべき生活習慣病を減少させるため、各地で行われている1次(健康増進・



網走郡津別町の「ノンノの森」(提供:津別町産業振興課)

疾病予防)予防に加えて、2次(早期発見・対処)・3次(リハビリテーション)予防を行うための、医療機関を参画させた健康保養地を開設すべきだと考えています。また、保養地には長期療養のための宿泊施設、飲食・娯楽施設等を整備しなければなりません。なぜ



島津 望 教授 観光研究ゼミナール

観光はすそ野の広い産業です。本学の観光産業学科では、このすそ野の広い産業を深く理解するために、観光に関する専門的知識や技能を系統的に学ぶことに加え、学際的な研究分野の学習にも力を入れています。2年生後期(第4セメスター)からは、その習熟度や応用力をさらに高めるため観光研究ゼミナールが開講します。今回は島津望教授のゼミナールを訪問しました。

観光旅行をはじめ人々が地域間を行き交うことで、そこには大きな経済的、社会的効果が生じます。本学の観光産業学科が目的のひとつとしているのは、そうしたさまざまな効果をもたらす活動現象を学習し、理解するところにあります。いま、多くの地方自治体がグリーンツーリズムやアグリツーリズムなど、新たな地域間交流や観光振興に取り組んでいます。そこで不可欠なのは地域の新しい魅力づくりということになります。島津ゼミではこの地域再生に向けた課題と可能性をテキストをもとに学んでいます。

島津ゼミが今期、利用しているテキストは、松尾雅彦著「スマート・テロワール 農村消滅論からの大転換」(学芸出版社)です。在籍するゼミ生5人は全員が3年生。少人数とい



うこともあって、アットホームな雰囲気がこのゼミの特長といえます。ゼミは島津教授の指導のもと、テキストを順番に読んで解釈し、問題点について論じ合うかたちで進みます。このテキストは、日本の農村地域にはまだまだ成長の余力があり、明るい未来があることを示し、その実現に向けた戦略と方法論を明らかにしたものであるとして、一般にも話題になった一冊です。キーワードは、美しく強靱な農村自給圏(スマート・テロワール)構想。発想を転換し、地域ごとに自立した経済圏を作っていくことで、日本の農村地域には15兆円の新しい産業を生み出す力があるということです。著者はポテトチップスなどでおなじみカルビーの元社長。意外な気もしますが、高品質のポテトチップスを安定供給するため、全国の農家とじゃがいも生産の契約を結ぶなど、日本の農業に精通する人物です。それもテキストの内容に説得力を増しています。

島津教授の専門は事業システム論。最近は地域産業の集積とそのネットワーク構造について研究を進めています。「観光のベースになるのは、その地域を形成する産業や文化の魅力です。都市と地方の格差が問題になっていますが、テキストを通しそこにある問題や、地域の可能性を発見することがゼミのねらいです」と島津教授。さらに今後は「6次産業化、農商工連携、地理的表示法など地域産業に関する政策の事例についても理解を深め、課題を見つける学習を進めたい」といいます。

これに対しゼミ生たちも意欲的です。「これまで地域の問題に触れる機会はほとんどありませんでした。地域観光の可能性を見直しています」と語るのは札幌市育ちという池田卓君。また、実家が美瑛市の農家で、地元が大好きという太田晃君は「農業で町が活性化できないかと考えていました。ゼミではアグリツーリズムなど多くの活性化事例について学び、理解を深めていきたい」と、希望を語っています。

ならば慢性疾患の治療には十分な療養期間を必要とし、利用者のための快適空間は保養地にとって必須条件だからです。

ドイツの健康保養地

ドイツでは森林療法を活用した医療サービスが、公的に認定されたクアオルトで行われています。その一つ「健康気候療法地」では中央に人々が憩う保養公園があり、その周囲に診療所や温泉等のリハビリテーション施設、映画館等の施設、そして宿泊施設が設置されています。つまり1次～3次の予防医療施設や長期滞在するための施設が整備され、来訪者にとって快適空間となっているのです。加えて森林環境の人為的改変を防ぐために10年ごとの定期適性検査が行われています。なぜならばドイツでは自然環境が健康の増進や治療に寄与する要素として捉えられているのです。この医療サービス体制と森林環境の維持管理体制によって、高品質の保養地が実現し国民から高い評価を得ています。一方、わが国では2006年に林野庁が全国の10ヵ所の森林をセラピー基地として認定し現在では60ヵ所になりました。各地の保養地では料理や特産物の創作に知恵を絞り1次予防の体制・施設づくりが進められています。

日本における森林保養地のあり方

ドイツのクアオルト方式をそのまま日本に導入するのは早計です。なぜならば、日本では森林療法の歴史が新しく社会的な認知度が十分に高くなく、ドイツで行われている気候療法にも馴染みが少ないからです。また、森林地域に医療施設をつくるには莫大な費用が掛かるとともに、医療従事者を集めるのも一苦労です。仮に良いものをつくったとしても利用してもらわなくては意味がありません。多くの人々が健康保養地を利用するためのインセンティブは、他の観光地にはない差別化された魅力にあります。そのために医療機関との連携はもちろん、サムシング・ニューの発掘・創造によるプロダクト・ブランドの確立を基軸とした、新たな質的向上戦略を考案するのが私の今の目標です。振り返ってみると、1987年に制定された総合保養地域整備法(リゾート法)以降、全国の森林地域では開発による環境破壊が進行しました。未だに、ホテル・リゾートマンション・ゴルフ場・スキー場等の建設による自然破壊の爪痕が残り、多くの地域で問題となっています。私はこれからも脱疾病社会の実現に少しでも役に立てばという思いで、人々の健康増進に関わる研究を続けていきたいと考えています。

「研究のいま」 田辺隆司 教授

19

20

21

ゼミ 訪問

ハード先生 Interview



北海学園北見大学の講師として来日

私は北海商科大学の前身である北海学園北見大学が開学した翌1978年、北見大学講師としてニュージーランドから来日しました。北見大学は北海学園と北見市が協力して設立した大学でしたので、大学が出来た当時から北見市との交流が盛んで、大学運営だけではなく地域社会の一部としての存在を非常に強く意識していました。その当時北見市には、外国人はあまり沢山はいませんでしたので、英語教育、国際交流の行事で大学の授業以外にも多くの活動をしました。

来日のきっかけは、ちょうど北見大学が出来る前、現在の森本学長が私立大学協会の一員としてニュージーランドに視察にいらしたことです。私が日本語を学んでいたマッセー大学にいらして、北見で新しい大学を設立するので、日本語が出来、英語を教えらるる教員を紹介して欲しいということから、日本語講座担当のポール・ナイト先生が私を推薦してくださり北見に来る機会を得ました。当時私は、日本文化に非常に強い関心があったのでぜひ日本に行きたいと思っていました。とても幸運なことでした。

けれども、北見は北海道のオホーツク圏、非常に自然に恵まれているが気候的に厳しい所で、国立公園や近くに網走刑務所があり、また流水も見られるとか、そのような情報しかニュージーランドにはありませんでした。

日本文化、北海道の歴史への興味

私はイギリスのケンブリッジ大学を卒業し、ニュージーランドに帰国して、政府の通産省の国際貿易関係の仕事で数年していました。この頃に日本語を学び始めました。1960年頃からです。ニュージーランドは太平洋の国としての意識が強くなり、日本との貿易関係、文化交流が非常に大切になり、アジア諸国との交流が大事な時代になりました。ニュージーランドの外国語教育として、日本語を学ばなければならない時代でした。ただ、中心的だったのは日本語会話でしたが、私自身は漢字や文学に興味を持ちました。ぜひ読めるようになりたいと日本語講座を勉強し、さらに政府の仕事辞めてアルバイトをしながら大学で学びました。そして日本や東洋文化に対する興味が尚さら深くなり、文学、特に俳句、漢詩を原文で読みたいと思いました。東洋文化は西洋文化と随分違います。翻訳もありますが、文学とか思想は原文で読まないとい元の意味がわからない。また幸いなことに、日本語を学んだことによって、日本語で書いている漢詩の解説、中国の古典を日本語を通して読むこともできました。

また、北海道の歴史もニュージーランドと共通性があります。近代北海道は農業が中心で地域社会が非常に重要なところ、移民が多いですから開放的な社会ですね。それもニュージーランドとの共通性。京都、奈良とか日本の伝統的な文化にも憧れを感じ国内旅行をしたりすることもあったのですが、北海道、北見は特に住みやすいところでした。北見の皆さんは非常に外国人に対して開放的で、歓迎してくださいました。全く予想してい

レスブリッジ大学 交換学生研修来日

去る6月1日から17日まで、交流協定校であるカナダ・レスブリッジ大学から引率教員2名と研修生14名が来道し、北海学園大学と合同で受け入れを行いました。同大学との交流は1981年から34年もの歴史があります。北海商科大学としての学生の交換事業は2007年、2009年、2013年に続いて4回目となります。研修生は日本の家庭にホームステイをしながら、本学の校舎で日本語研修、日本文化研修を受講したほか、書道や餅つきを体験し、登別・函館への研修旅行、北海道開拓の村・アサヒビール工場・YOSAKOIソーラン祭りの見学に参加しました。引率のキャサリン・キングフィッシャー先生は「2012年に北海学園大学の客員教授で来たときには洞爺湖、小樽、登別にしか行ったことがなかった。今回は函館に行けるので楽しみ」と語っていました。学生のアンドレア・ノーマンさん(2年生)は本学の印象について「先生と学生が非常に親切で、私たちが困っていることがあると、いつも助けてくれる。とてもフレンドリーです」と述べ、サイロン・ウォンさん(3年生)「北海道は海産物が有名だと聞きました。私は味噌ラーメンが好きです」「東京と違って大きな商業都市ではないが、札幌の自然は素晴らしいです」と北海道の印象を語りました。(水野)



写真左上：平岸地区住民との交流会で餅つき体験 右上：日本語研修 下：修了式後に協力学生と集合写真

22

23

24

なかったのですが、北見、オホーツク圏は日本の伝統的な文化を大切にすることが沢山あります。特に邦楽関係、都山流尺八とかお琴の先生方との交流があって、そのお陰で日本の伝統的な文化も体験することが出来たんです。これは北見、オホーツク圏の非常に重要な特徴のひとつです。文学とか美術など、文化活動が非常に盛んな社会です。個人として、大変北見の皆さんにお世話になりました。非常に名残惜しいです。37年間という日本での生活は、とてもとても貴重な経験でした。今後も、できるならニュージーランドと日本との交流に参加したいと思っています。

初めて北見に来る時は、一年間の契約でした。私も非常に北見が気に入って生活し、今に至りました。37年です、長かったですね。今もそうですが、日本の文化、北海道に対する非常に深い興味と関心があります。日本語、漢字の勉強や書類、本を読んだり、その経験が長くなりましたので、今はお陰さまで日本の専門書、歴史書とかを割と早く読めるようになりました。ニュージーランドに帰ってからは、そのような貴重な本、特に北見関係の本や、北海道の歴史、最近では縄文時代、古い時代の日本の歴史に興味がありますし、またサハリン、千島と大陸とか、そのような歴史に関する本、資料が沢山ありますので、さらにそれを読み進めたいと思っています。

夢ある人生を送りましょう

最後になりますが、学生の皆さんにメッセージを送りたいと思います。まず英語ですが、ただ学問ではなく、自分の人生の一部として身につけていただきたいことです。授業は大切ですが、それだけで十分に国際意識とか英語能力を身につけることはできませんので、ぜひ自分自身の活動としてやっていただきたい。そして、自分の人生として、自分自身が思っていること、また自分がやりたいことを積極的にやって生きていただきたい。日本の社会を見ると、無理とか我慢をしなければならないことが多いと思います。人生の全てが無理とか我慢になってしまうと可哀想です。本人が可哀想です、日本も駄目になります。本来ある能力とか、それが発揮できる社会にしないと、日本の社会が元気にならないと思います。また、勉強だけではなく、友達との友情関係も大切にして、スポーツ活動、サークル活動など全体として充実した大学生活を送って下さい。就職するのは日本の社会ではとても難しく厳しいことですが、就職のことだけではなく、幅広く夢があるような人生を送るように活動していただきたい。

私自身もそうでしたけれど、学問を実際の能力に変えていく過程はとても難しいことですが、それを挑戦していただきたいです。最後にもうひとつお伝えしたい。日本は素晴らしい国です。昔からの伝統もありますし、現代日本にも素晴らしい面がいっぱいあります。自分の国に対する誇りを持って、ぜひ世界に自分の国の良い所、自分の文化の良い所を紹介していただきたいです。自分が関心のあることについて、スポーツ、料理に興味があれば日本の料理も世界中に有名です料理のこと、もしファッションとかに興味があったらそっちの方を。そういうような自分の国の良いこと好きなことを強く意識して、誇りに思うこと、それを海外に積極的に紹介するようにお願いしたいです。

東アジアの変容と協調 が開催される

平成27(2015)年度 前期公開講座

北海商科大学公開講座を上記の全体テーマの下で開催しました。

■日時：平成27(2015)年5月23日・6月6日・6月20日・7月4日・7月18日
(全5回、10:30~12:30)

■場所：北海商科大学8階会議場

■参加対象：一般市民(含む学生)

本学の公開講座は平成19(2007)年度より前期・後期の年2回シリーズで開催し、本年度で9年目を迎えています。これまで「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして東アジアの知的関心を高める内容となるよう留意し、実施しています。幸い、多数の関心ある方々の参加があり(各80名程度)、恒常的な受講者も多数を数えています。今期は多様な変容を遂げる中国・韓国・台湾の動きを中心に、新たな協調が期待される東アジアについて考える内容としました。時代は、単一文化に拘泥することなく、各国の多様性の中に異質性と同質性を見出そうとする努力から、相互理解を深め、たゆまぬ国際協調への道を探求していくことを益々求めているように思います。限られた開催回数ではありますが、本講座が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジアひいては世界の人々の共通認識・相互理解およ

び交流へとつながることを期待しています。多くの方々の積極的な参加を期待しています。(伊藤)



第一回公開講座の本学西川博史教授と菊地均教授(手前)

スピーチコンテスト・ 語学検定報告+

第14回世界大学生中国語スピーチコンテスト北海道予選入賞

5月24日「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテストが孔子学院で行われ、今年は本学から出場者2年生4名だけが出場しました。例年の2・3・4学年が揃って出場するのに比べやや寂しかった。最も厳しい審査の中で、本学出場した石澤駿昂さんが三位、佐藤結歩さんが特別賞に入賞しまし



本学から入賞した石澤駿昂さん(左から2人目)、佐藤結歩さん(左端)

た。井口まいさん、本間麻友さんも高い評価を獲得し、勉強暦としてわずか1年あまりの彼らにとっては、審査員に出された質問がやや難しかったが、彼らは見事に応答でき、観客から大きな歓声が沸きました。

今回一位、二位を取った出場者は長期留学の経験もあり、その発音の自然さや中国語の学習熱意の高さでよい成績を取めました。最近、本学の中国語履修者においては、長期留学制度を生かし、中国に留学しようという意志が弱くなってきた傾向があり、今後、高い目標に向けて一層頑張ってほしいと思います。

なお、今回の指導に携わっていただいた煙台大学交換教授の李順傑先生及び交換留学生の皆さんに心から厚く御礼申し上げますと同時に、いつも高レベルを目指しながら、一所懸命に努力してきた2年生の出場者に敬服の意を表します。お疲れ様でした!

(蘇)

本学にて第40回韓国語能力試験(TOPIK)実施

4月26日(日)、本学にて第40回韓国語能力試験(TOPIK)が実施されました。この試験は韓国政府(教育部)が認定・実施する唯一の韓国語試験であり、韓国語を母語としない韓国語学習者を対象に世界70カ国以上で一斉に実施されています。日本では韓国教育財団が試験実施を主管しています。かつては初級(1・2級)・中級(3・4級)・高級(5・6級)の3段階(6級が最上級)に分かれていましたが、昨年度より試験制度が大幅に変更され、初級(1・2級)、中高級(3・4・5・6級)の2段階となり、点数によって級が振り分けられるようになりました。問題内容も大幅に変更され、読解や聴解の分量が増加し、平素の地道な学習と実力が結果に反映されるようになりました。一夜漬けの試験対策ではもは

や中・上級合格は望めず、普段からどれだけ韓国語に親しんでいるのかを試されることとなります。本学は北海道で唯一の韓国語能力試験の会場であり、今回は本学から2年生、3年生を中心に30人あまりが試験に取り組みました。特に1月に韓国から帰国した韓国短期留学派遣経験者にとっては初めて実力を発揮する場となりました。試験結果は6月16日からインターネット上で公開されており、本人が各自確認することができますが、上級の5級に田村静流さん(2年生)、永森葉月さん(3年生)が合格し、山崎菜さん(2年生)が初の2年生としての合格者という快挙を成し遂げました。

また、駐日韓国文化院が主催した「韓日交流エッセイ・フォトコンテスト」の「韓国語エッセイ部門」(応募総数228件)の結果が6月10日に発表され、2年生の小野彩夏さんが見事入賞を果たしました。

(水野)

新任教職員 交換教員 紹介



■新任教員
Brian Nielsen
ニールセン ブライアン

私は英語が公用語であるオーストラリアで育ちました。そのおかげで多くの国で英語講師として働く事ができ、多くの異なる文化を体験しました。

1993年にクイーンズランド工科大学を卒業し、その後、ゴールドコーストの英語教育学校に参加することを決め、1年半そこで教えました。この経験は素晴らしい、それがきっかけで日本で英語を教えることを決めました。

1998年から6年間苫小牧工業高等専門学校や釧路工業高等専門学校で専任教員として勤めていた間、TESOL(英語教授法)の修士号を取得しました。その後、2005年には、UAEの首都アブダビの女子大学で英語講師として5年間勤務する機会2011年に家族と一緒に日本に戻り、北海学園大学で英語教育を担当する専任講師として働き始めました。今年度からは、幸運にも北海商科大学の教授として採用され、国際社会と異文化交流、TOEIC、時事

問題、英会話等を教えることで皆さんとお会いできました。

私が皆さんから受けた第一印象は、皆さんは勤勉で、礼儀正しく、そしてとてもフレンドリーだということです。私は常に英語を教えることが大好きです。私の授業が学生達にとって興味深く、役に立つことを願っています。もし学内で私を見かけたら是非お声をかけて下さい。



■新任職員
キャリア支援・
学生支援センター
主任 **森元 牧子**

学生の皆さんが有意義な大学生活を送れるようサポートします。



■交換教員
李 順杰
リ ジュンジェイ

1979年1月、中国陝西省鎮安県で生まれました。2007年にイギリス

Sunderland Universityビジネス専攻を卒業し、現在は煙台大学の先生です。中国山東省省級教學成果獎と第四回“外教社杯”全國高校外語教學大賽三位入賞しました。《多媒體應用於大學英語教學的幾點體會》、《對“學習互動小組”在我國教學應用中的思考》、《全球金融危機下的大學英語課程改革》、《從馬斯洛需要層次理論分析大學英語分級教學中的問題》などの論文があります。

2015年4月1日から北海商科大学に中国語を教える客員教授として赴任し、日本の学生に対して深い印象を持っています。学生たちは先生を尊敬し、自律心が強く、勤勉で勉学に励み、中国語の勉強に対して非常に興味を持っています。そして卒業後に中国語の活用できる仕事に従事したがるように見受けられます。



■交換教員
林 昌浩
イム チャンホ

1969年3月、大韓民国仁川広域市江華郡で生まれました。2002

年に東国大学の大学院を卒業して、慶南大学の警察行政学科で勤務した後、現在は大田大学の警察学科の教授です。韓国警察学会・倫理委員長、韓国公安行政学会・倫理委員、韓国犯罪心理学会・常任理事として勤務しています。

『現代警察学概論』『警察人事行政論』『地域社会警察活動』『人質交渉論』『犯罪捜査論』などの専門書があります。また、警察行政などに関する30編余りの学術論文を発表しました。

2015年4月1日から北海商科大学で韓国語を教える客員教授として就任して、日本の学生たちに韓国語及び韓国文化について情熱的に教えています。特に、一方的な授業ではなく、学生たちが積極的に参加するように誘導する創意的教授法を活用することで、学生たちが効果的に韓国語を学習できるように努力しています。

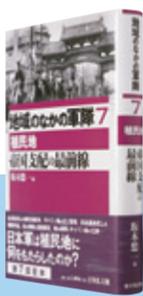
新刊紹介



『戦中戦後の中国とアメリカ・日本
—「東アジア統合構想」の歴史的検証—』
西川博史 著
2014年12月10日/HINAS刊
ISBN978-4-905418-05-4



『シュンペーターの資本主義論』
菊地 均 著
2015年1月25日/日本経済評論社刊
ISBN978-4-8188-2372-3



『地域のなかの軍隊7
植民地 帝国支配の最前線』
竹野 学 共著
2015年5月1日/吉川弘文館刊
ISBN978-4-642-06479-8

@学生相談室ニューズレター3

「心身のメンテナンス」

学生相談室 カウンセラー 小林 美穂子
E-mail : soudan@hokkai.ac.jp

今回は、心身のメンテナンスの方法のひとつとして、睡眠について触れてみたいと思います。

心と体は密接につながっています。例えば、心配なことがあったり、悩みがあったりすると、寝つきが悪くなる等の経験をしたことはありませんか？また、疲れると思考がネガティブになりがちになり、特に夜は、余計なことをあれこれ考え不安に駆られることもあります。そんなときは、“とっとと寝る！”に限ります。睡眠には、心身の疲労を回復し、ストレスを解消する働きがあるからです。

さて、快眠のポイントとしては、

- 1.毎朝、同じ時間に起床する。
- 2.軽い運動習慣を身につける。
- 3.昼寝は午後3時までに20分以内。
- 4.就寝3時間前に夕食をすませる。
- 5.夜のカフェイン摂取を控える。
- 6.就寝前のPC、TV、ゲームを避ける。
- 7.ぬるめのお風呂でリラックス。

などが、お勧めです。

“快眠力”を上げることによって、集中力と記憶力も高まり、勉強もはかどりますよ。徹夜で勉強することは効率が悪くなるのでお勧めできません。

もし、睡眠に関して何らかの問題が続くようであれば、専門家の受診をお勧めします。

また睡眠に限らず、困ったことがあるときは、一人で抱え込まずに、相談室の扉をたたいてください。一緒にどうすればいいか、考えていきましょう。まずは、上記のアドレスに予約申し込みの連絡をくださいね。



26 27

28

25

29

サークル活動紹介

サークル連合では、所属の15団体が課外活動を行っています。サークル連合執行部代表の安藤真奈さん(商学科4年・写真右)に活動について訊きました。



「自由の広がった大学生活の更なる充実を図るため、サークルを通して学生同士のつながりを強めるとともに学校とのパイプ役を目指して活動しています。大学は学問だけでなく、たくさんのことを学ぶ場ですが、その1つの手段が課外活動です。サークル活動を通して新しい自分を見つけ、楽しい4年間を送りませんか。サークル活動についてはサークル連合に連絡してください。」

平成27年度 サークル一覧

体育	OSB(アウトドアスポーツビジネスサークル)
体育	山岳同好会
体育	ダンスサークル(ドルティップ)
体育	テニスサークル
体育	軟式野球部
体育	バスケットボール部
体育	バレーボールサークル
体育	フットサル部(REGISTA)
体育	陸上競技部
文化	会計研究会
文化	環境ボランティアサークル
文化	韓国語サークル
文化	教育研究会
文化	中国語サークル(飲々喜々)
文化	ツーリズム研究会
各種団体	サークル連合執行部
各種団体	体育祭・大学祭実行委員会
各種団体	卒業アルバム制作委員会

■サークル連合 hsc_saren@yahoo.co.jp



写真左上：環境ボランティアサークルが参加した豊平地区町内会の花植え活動 右上：各サークルの勧誘ポスターに見入る新入生 左下・右下：サークルPR大会

行事予定

6/20(国)	海外語学留学保護者説明会(予定)	9/15(金)	3年次ガイダンス、4年次ガイダンス
6/28(日)	第1回オープンキャンパス2015	9/15(金)・16(土)	1年次履修登録
7/1(日)	第2回所属学科選考ガイダンス[2年次]	9/16(金)・17(土)	2年次履修登録
7/3(金)	志望学科届提出期限[2年次]	9/17(土)・18(日)	3年次履修登録
8/3(月)	前期講義終了	9/18(金)	4年次履修登録(1日限り)
8/4(火)	夏季休業開始	9/24(金)	履修登録訂正日(全年)
8/6(木)	成績開示開始・成績・採点異議申し立て受付	9/26(日)	北海商科祭(予定)
8/6(木)・7(金)	第2回オープンキャンパス2015	9/27(日)	第3回オープンキャンパス2015
8/8(土)	成績・採点異議申し立て受付終了	9/28(月)	後期講義開始
8/13(木)・16(日)	全学休業日	10/14(日)	振替講義日(月曜日)
8/28(金)	海外語学留学生出発【韓国】(予定)	11/6(金)	振替講義日(火曜日)
8/29(土)	海外語学留学生出発【中国】(予定)	11/7(土)	体育祭(予定)
9/10(日)	前期修学指導面談②(予定)	11/20(金)	後期修学指導面談①(予定)
9/13(日)	夏季休業終了	12/24(日)	振替講義日(水曜日)
9/14(月)	2年次ガイダンス、1年次ガイダンス	12/26(日)	冬季休業開始(1/7(日)冬季休業終了)